

長浜市
滋賀県 共同発信

今月のイチオシ「花と緑の滋賀シリーズ」

長浜市の「アカメヤナギ」を発信します



今回は、長浜市から琵琶湖岸の生き物たちのゆりかご「アカメヤナギ」を紹介します。

アカメヤナギは、湿地に生える高木で、高さ10mを超える大木になります。新芽と若葉が赤っぽい色をしているためこの名がついています。びわ湖の湖岸で見られる大きな木のほとんどが、このアカメヤナギです。広がった大きな枝ぶりが美しく、ヨシと共にびわ湖岸の環境を作り出しています。

「アカメヤナギ」は、10mから20mにもなるヤナギ科ヤナギ属の落葉高木、新芽や若葉が赤いためその名がついています。葉の形が俗に言う細長いヤナギ葉型ではなく、普通の丸い葉の形をしていることから別名「マルバヤナギ」とも呼ばれることがあります。

アカメヤナギには、たくさんの昆虫たちが集まります。葉は蝶などの幼虫が食べ、幹の深い溝は様々な昆虫の冬越しの場所とします。その昆虫を狙って鳥や獣が集まるため、多様な生態系を作り出します。

また湖岸の浅瀬に生えるアカメヤナギの根は、モロコやコイ、フナなどが卵を産む場所にもなっており、琵琶湖全体の生態系を支えていると言っても過言ではありません。



アカメヤナギの葉（左）と若葉（右）

【ここがイチオシ！】

長浜市の湖岸では、このアカメヤナギの林が特に発達しており、湖の中に生える独特の風景が見られます。これはびわ湖の周辺のどこにでも見られた風景でしたが、湖岸の開発や埋め立てに伴いなくなってきました。

長浜市湖北町の湖岸は遠浅の湖岸が今も埋め立てられずに残っている地域で、浅瀬に点在するアカメヤナギの林が見られます。



撮影場所：長浜市湖北町延勝寺 舟だまり

昔どこでも見られたびわ湖の風景ということで、この辺りの湖岸の景観は「びわ湖の原風景」とも呼ばれています。



撮影場所：長浜市湖北町今西 水門付近

水位の高い時は、まるで水中から生えているように見えるときもあり、とても幻想的な光景を作り出します。

昔は湖岸のアカメヤナギをまきや船の材などたくさんの方が利用しており、アカメヤナギを切っていました。アカメヤナギを切ることで下草のヨシが再生し、ヨシとアカメヤナギが混生する多様な環境が生み出されていました。

人と自然が共生しながら多様な生態系を作り出してきた「里山：さとやま」と同じ関係が、びわ湖の湖岸にもあります。これを近年では「里湖：さとうみ」と呼んでいます。

近年は、木の利用がなくなり、定期的な伐採が行われなくなった結果、アカメヤナギばかりの湖岸が目立つようになってきました。アカメヤナギだけの単一な環境は、景観はもとより琵琶湖の湖岸の生態系の側面から見てもよくありません。「里山：さとやま」の問題と同じ状況が、琵琶湖の湖岸でもうまれつつあります。

人による適切な管理と、自然保護の両立が必要なこれからの琵琶湖の湖岸の自然環境だと考えられています。

【問合せ】長浜市役所 市民広報課

電話:0749-65-6504 FAX:0749-65-4006

メール: kouhou@city.nagahama.lg.jp